



糸東小だより



笛吹っ子

平成23年7月22日(金)

7月号 No. 7

教育目標：やさしく かしく たくましく

私の夏休みの思い出



いよいよ明日から8月31日までの、40日間の長い夏休みが始まります。子どもたちにとって、楽しい思い出や価値ある体験をたくさん得られる有意義な夏休みになって欲しいと願っています。また、東日本大震災の被災地の皆さんや東京電力株式会社福島原子力発電所の事故に伴う原子力損害にあわれた方々には、一日も早く復興されることを願っています。

さて、50年くらい昔の私の夏休みを思い出してみました。私の家には、エアコンは勿論、自家用車、電話、冷蔵庫、テレビなどありませんでした。小学校4年生くらいまで、母はかまどでご飯を炊いていたと記憶しています。夏休みの楽しみは、お盆にあわせて父や母の実家に行って従兄弟達と遊ぶことでした。とにかく子どもがいっぱいいたので、自分から進んで仲間に入らないと楽しめませんでした。母の実家は、水崎（今の上刈5丁目）にあり、遊び場は美山と姫川でした。姫川の用水の取り入れ口になる横戸という所が、自然のプールのようになっていて子どもが水遊びに群れていました。また、大水の出た後の中州の水たまりは天然の養魚場のようで、とび込むと鮎やおごいが体に当たるほどたくさんいました。本物の海水パンツをはいている子どもは少なく、私もとび込むとデカパンが水の中で脱げてしまって、すっぽんぽんになって浮かび上がったことを覚えています。おやつは、井戸水で冷やしたキュウリ、トマト、スイカ、マクワなどでした。うまかったです。勿論、勉強もしました。子どもが大勢いたので子どものルールがしっかりしていて例外は、認められませんでした。朝、9時から10時頃までは遊びに出ないで夏休みの宿題をしていたと思います。

私の夏休みは、物は無かったけれど、子どもがいっぱいて時間と自然が豊かでした。今の子どもたち、物は豊かになったけれど、時間も自然も余裕が無くなり、子どもの数も減り続けています。考えさせられる時代になりました。 藤田 英志

栄養職員 両川 絵美 が復帰しました！



2年間育児休業を取らせていただき、6月から糸東小に戻ってきました。元気でかわいい笛吹っ子と、また一緒に過ごせることを楽しみにしてきました。子どもたちにパワーをもらいながら、全校児童に喜ばれる給食作り、食育に取り組んでいきます。どうぞよろしくお願いします。



出前講座「防災について」



【「防災について」の講演風景】

P T A 教養部では、東日本大震災の記憶も新しい今、今回の講演会を通して、防災についての正しい知識を身に付け、日ごろの備えのあり方を考える機会にしたいと、「防災について」の講演会を行いました。

講師に、糸魚川市消防本部防災室防火係 小林 正広 様を迎えて、7月7日（木）午後2時15分より約1時間、保護者、学校職員、5年生児童が防災について学びました。

地震や津波に対する備えや発生したときの対応、災害発生時の避難場所や避難方法を学びました。

4年生「梅干し」づくり



【梅の実を良く拭いてから、つけ込みます。】

4年生は、総合的な学習の時間のテーマとして、「塩」に取り組んでいます。夏休みには、須沢海岸で塩作りに挑戦します。今回は、塩を使った日本の伝統的保存食品「梅干し」づくりに挑戦しました。指導者は、山本さん、横澤さん、月岡さん、小田さん、石田さん方地元の皆さんです。

7月5日（火）には、梅のつけ込みを行いました。良く洗ったきれいな手で、梅の実を1個1個丁寧に拭きました。カビの発生を防ぐためだそうです。その後、焼酎に絡めて塩をまぶし、かめにいれました。子どもたちは皆初めての体験で、ワクワクドキドキでした。

7月15日（金）には、紫蘇の葉をつけ込みました。まず葉を枝からちぎります。ちぎった葉を塩で良くもんで、葉から汁を出します。これを2回するとアクが抜けるそうです。この紫蘇の葉に梅酢をかけると、あの赤い梅色に変わります。子どもたちはこの色の変化にビックリしていました。

夏休みには、梅干しを干す作業が計画されています。この梅干しが、来年のけんか祭りで、神輿を担ぐ人たちのエネルギーになることでしょう。



【紫蘇の葉は、塩でもんでアクを出します。】